

技術力向上の取り組み ～九頭竜ダム生態系研修会～

九頭竜川ダム統合管理事務所

技術力向上の一環として、九頭竜ダムで生態系研修会を実施しました。

これは、福井県水産課・内水面総合センター・奥越漁協・電源開発・大野市と共同した、外来魚駆除一斉活動の中であわせて行ったもので、職員7名が参加しての、総勢20名で行っています。

研修会では、①駆除対象魚(コクチバス)の特徴や習性、②今回使用する器具の説明、③実施ポイントの勉強会を行ったのち、ダム湖各地に別れて、小型ボートによる刺し網と陸上からの竿釣りによる駆除方法の体験実習を行いました。

研修概要

開催日時:平成26年6月26日(木)

10:00～15:30

実施場所:福井県大野市長野(九頭竜ダム)

研修次第

- 勉強会
 - ・対象魚, 探索方法の説明
 - ・使用器具の説明
 - ・ポイントの説明
- 刺し網, 竿釣りによる駆除方法の体験実習
- まとめ



勉強会での説明

コクチバスの親魚



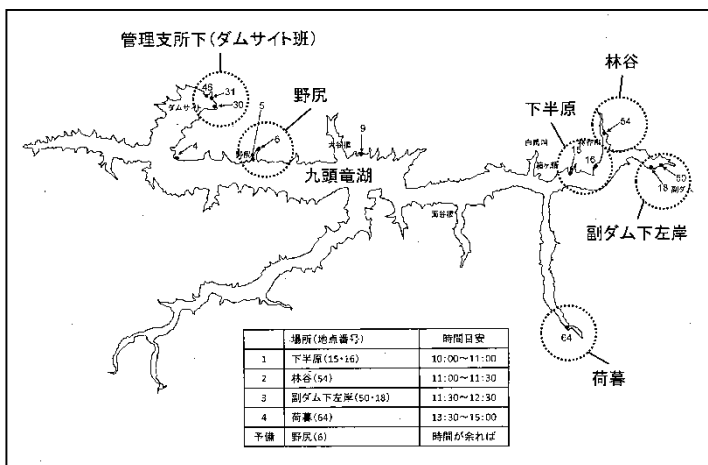
産卵床 I



産卵床 II



駆除対象魚の特徴・習性



駆除実施ポイント



平成26年6月
近畿地方整備局 九頭竜川ダム統合管理事務所

今回の活動では、初日26日だけでも、数時間で8匹捕獲されました。そのうち4匹は竿釣りによるもので、竿釣りの有効性も一定確認されました。

刺し網は、翌日27日に引き上げが行われ、初日とあわせて35匹の捕獲に成功しました。体長50cmクラスも確認されました。



陸上からの駆除状況



小型ボートによる駆除状況

コクチバス駆除

九頭竜ダム 在来魚に影響

県や奥越漁協

県と奥越漁協合同組合などは二十六日、大野市和泉地区の九頭竜ダムで、特定外来生物に指定されているブラックバスの一種「コクチバス」の駆除作業を始めた。両者が連携した大掛かりな駆除は二年目で、在来魚を守るため刺し網を使ってバスの捕獲に挑んだ。二十七日も行う。

九頭竜ダムでは二〇一七年にコクチバスの繁殖が確認された。もともと生息するイワナ、ヤマメ、フナ、コイなどの生息に影響を及ぼす懸念があり、ダムでの遊魚を管理する奥越漁協が県と駆除に取り組んでいる。県内ではコクチバスの唯一の生息地だといっ。

捕獲の対象は、産卵場所近くで稚魚を産んでいない雄の成魚。これまでの県の調査でダム湖岸の約七十カ所が産卵場になっていると分かっており、このポイントを中心に二枚の刺し網（長約三〇メートル、深約一・

五メートル）を仕掛けた。ダム管理事務所近くでは、体長二〇センチ程度のコクチバスがかかった。県内水面総合センターの岩谷芳昌所長は「心ない人の密放流が原因。在来魚の被害が顕著になる前に少しでも駆除しないと」と警鐘を鳴らし、奥越漁協の新井俊也組合長は「バス釣りはしないほしい。他の釣りでバスを釣り上げたら、漁協に連絡し、持ち帰ってもいい」と話していた。

県によると、コクチバスの生息数は不明だが、五月中旬十六日中に一回の小規模な駆除を実施し、三十八匹を捕獲したという。コクチバスは北米原産。肉食性が強く、魚やむしを好む。外来生物法で特定外来生物に指定され放流や飼育は禁止されている。（尾崎隆宏）

日刊県民福井新聞に掲載されたり、福井放送等で放送されました

■まとめ

外来魚の繁殖は、本来の生態系への影響が危惧されており、全国的に問題となっています。外来魚に関する生態や駆除方法を学習・体験することにより、今後の環境対策やダム管理に大いに役立つものと思われれます。

参加団体からは、今回の取り組みがマスコミに取り上げられたことから、バス釣りや外来魚の放流を助長しないか？といった危惧の声も出され、新たな課題も浮き彫りになっています。

今後も、各団体と共同した取り組みを広げていく必要があります。

【問い合わせ先】

国土交通省 近畿地方整備局 九頭竜川ダム統合管理事務所
九頭竜ダム管理支所

〒912-0214 福井県大野市長野33-4-1

TEL 0779-78-2116



平成26年6月

近畿地方整備局 九頭竜川ダム統合管理事務所